



平成23年度 果樹情報 第10号

(平成23年8月18日)



福島県農林水産部農業振興課

1 気象概況 (8月1～3半旬：果樹研究所)

平均気温は1半旬が22.8℃で平年より3.1℃低く、2半旬が27.3℃で平年より1.6℃高く、3半旬が27.5℃で平年より2.0℃高く経過しました。この期間の降水量は53mmで平年の76%でした。

2 土壌の乾燥状態 (果樹研究所)

8月14日現在の土壌水分(草生栽培リンゴほ場：無かん水)は、深さ20cmがpF2.5で適湿、深さ40cmがpF1.8、深さ60cmがpF1.8でそれぞれやや過湿傾向となっています。

3 生育概況 (8月15日現在：果樹研究所)

表 主要品種の果実肥大(暦日比較 果樹研究所8月15日調査)

果実肥大	モモ				ナシ				リンゴ			
	あかつき		ゆうぞら		幸水		豊水		つがる		ふじ	
	縦径	側径	縦径	側径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径	縦径	横径
実測値(mm)	—	—	61.4	61.2	64.1	80.7	67.5	76.5	74.5	83.9	66.4	74.4
平年比(%)	—	—	94	90	101	103	106	106	105	103	102	104

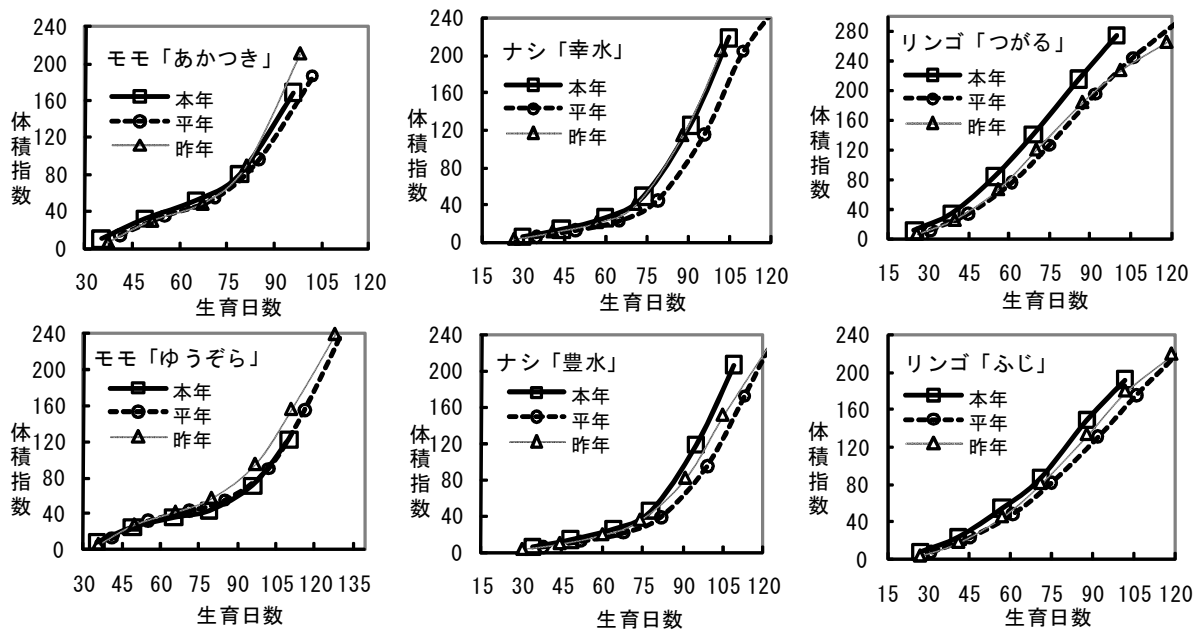


図 主要品種の果実肥大 (果実の生育日数比較 果樹研究所8月15日調査)

(1) モモ

果実肥大を暦日で比較すると、「ゆうぞら」は縦径が平年比94%、側径が平年比90%と平年より小さい状況です。果実の生育日数による比較でも、平年より小さい状況となっています。

「ゆうぞら」の新梢生長(満開後110日)は、長さが平年比55%と短く、新梢停止は平年より早い状況となっています。

「あかつき」の収穫始めは8月5日で平年より3日遅れました。果実の大きさは平年よりやや小さく、糖度は平年並みでした。

(2) ナシ

果実肥大を暦日で比較すると、「幸水」は縦径が平年比101%、横径が平年比103%で平年並み、「豊水」は縦径が平年比106%、横径が平年比106%と平年より大きい状況です。果実の生育日数による比較では、両品種ともに平年より大きい状況です。

「幸水」の果実の成熟状況（満開後105日）は、果肉硬度は平年より低いものの果皮中クロロフィル含量は平年より高く、果肉先熟傾向となっています。また、糖度は平年よりやや低い傾向となっています。

農業総合センター果樹研究所によると、「幸水」の収穫盛期は9月3日頃で、平年より1日遅いと予測されています。

(3) リンゴ

果実肥大を暦日で比較すると、「つがる」は縦径が平年比105%、横径が平年比103%、「ふじ」は縦径が平年比102%、横径が平年比104%で両品種ともに平年よりやや大きい状況です。また、果実の生育日数による比較では、「つがる」は平年並み、「ふじ」は平年よりやや大きい状況です。

「つがる」の果実の成熟状況（満開後97日）は、硬度は平年より高く、リンゴ酸は平年並み、糖度はやや高い傾向となっています。また、デンプンの消失は平年より早い傾向があります。

(4) ブドウ

「あづましずく」の収穫始めは8月11日でした。果実品質は、果皮色と糖度は昨年より高く、酒石酸含量は昨年より低い状況でした。

「巨峰」の成熟状況（8月15日現在）は、糖度（Brix）が14.7、酒石酸含量が0.97%となっています。

4 栽培管理上の留意点

(1) モモ

ア 中～晩生品種の収穫

中生品種の果実は果肉先熟傾向でしたので、果肉の軟化に注意し、収穫が遅れないようにしましょう。

イ 晩生品種の収穫前管理

「川中島白桃」等の晩生種は、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置などを計画的に実施しましょう。

(2) ナシ

ア 「幸水」の収穫

本年は果肉先熟型の成熟となることが予想されますので、収穫が遅れないよう注意しましょう。

「幸水」は、降雨等により土壌水分が急激に増加すると、果実の成熟が早く進む（特に、収穫盛期以降）ことがあるので注意が必要です。また、収穫時の果実温が高いと果肉が軟化しやすいので、気温の低いうちに収穫し、収穫後は涼しい場所に保管するように心がけましょう。

イ 「豊水」の修正摘果

「豊水」は満開後120日頃を目安に修正摘果を実施しましょう。着果過多にならないよう適正着果を心がけましょう。

(3) リンゴ

ア 早生種の収穫前管理

「つがる」や「さんさ」は、果面の30%程度が着色した頃から摘葉を実施します。気温の高い日が続く場合は日焼け果の発生が懸念されるため、果そう葉と新梢葉の2回に分けて実

施しましょう。

イ 修正摘果

中晩生品種は、果実の大きさ、果形、サビ、日焼けの有無等をよく見て修正摘果を実施しましょう

ウ 早生品種の収穫

「つがる」の果実の成熟は、今後、気温が高温で推移したり降雨が続くと早まる可能性があるため、気象の推移と果実の成熟状況に注意しながら適期収穫を心がけましょう。

(4) ブドウ

ア 収穫適期の把握

収穫時期は、樹勢や房型、着房数に影響されます。果皮色や食味（特に糖酸比）、香り等により総合的に判断し、適期収穫を心がけましょう。

イ 収穫方法

収穫は、日持ちを良くするため果実温の低い早朝に実施しましょう。また、収穫、調製の際には、脱粒したり花粉が落ちないように果房を丁寧に取り扱いましょう。

5 病害虫防除上の留意点

(1) 病 害

ア リンゴ斑点落葉病、褐斑病、炭疽病

斑点落葉病は、多湿条件が続くと発生が増加するので、防除を徹底しましょう。また、褐斑病および炭疽病の感染、発病が増加する時期となるので、防除を徹底しましょう。

イ モモ灰星病

降雨により感染が助長されるため、晩生種に対する防除を徹底しましょう。

ウ ナシ黒斑病

例年発病が多い園では、防除を徹底しましょう。

(2) 虫 害

ア モモハモグリガ

第5世代の防除適期は、8月6半旬頃と予想されます。発生が多い園では、防除を徹底してください。近隣に放任園等がある場合は、特に注意しましょう。

イ ナシヒメシンクイ

第4世代の防除適期は、8月6半旬頃と予想されます。第3世代以降はナシ果実への寄生が増加するので、防除を徹底しましょう。

ウ モモノゴマダラノメイガ

モモの中生品種で被害が見られた園では、晩生種に対する防除を徹底しましょう。本種はカキやクリにも寄生するため、近隣にこれらの樹種がある場合はそれぞれ注意しましょう。

エ リンゴコカクモンハマキ

第3世代の防除適期は平年並の9月2～4半旬頃になると予想されます。密度が高い場合は収穫後も防除を徹底しましょう。

オ ハダニ類

高温乾燥条件が続く場合はハダニ類の急増に注意し、要防除水準（1葉に雌成虫1頭）の密度になったら速やかに防除を行いましょう。

カ カイガラムシ類

クワコナカイガラムシの第2世代幼虫の防除適期は9月中～下旬頃になると予想されますので、発生の多い園では防除を実施しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

<http://www.pref.fukushima.jp/fappi/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。